

ウィズコロナ時代の水産業

県水産業の発展に向け意見交換



特別顧問 山尾政博 氏

講師 平川 摂氏



若手漁業者らから前向きな意見が出された

興大分県の高野英利、特設短期産振
問である山尾政博。認識授
が趣旨を説明した。打撃の感
染拡大で消費経済が大ダメージを受
け、消費費つた。外食形態が少
きく変った。流通も消費減少
し、量販店は売上の伸びが鈍
で、中食は宅配による需要が激減
盛となった。宅配の需要も相まっ
に、高級消費のインバウンド減
まして、高消費の需要も相まっ
すでも並ぶ状況が量販店の店頭減
「す」ぶる消耗も見られた。支
出は着実に伸び、水産物の生産
者は底堅い需要がある。新たな生
者販売の食品加工業は、新とな
販を支えるネットサイコが
増えた。これまでも常識が、
常識的な市場流通とどる向
既存の市場流通といきあ
合次の議論「さいきあ
ベ食べる通信「さいきあ
集長が「通信「さいきあ
情報発信の自信。「いごと今
情その信分。「いごと今
講演された。いごと今
者東日本震災の被災漁業
食べ物生産物販売支援として
通信用のクリエイティブな食
後、故郷の佐伯市にUターン課

恒例となった「大分県水産業の発展に向けて
意見交換会」が14日、別府市のホテールや
開校した。漁業士为主体、新規就業者や
漁業学校生も参加。総勢43名がコロナ禍の
消費形態の変化を踏まえ、今後の水産物流通
対策などについて議論した。

JF大分

水産おおい

発行元
大分県漁協

組 合 員 が 、 漁 船 に よ く な る 漁 場	ど う で も 休 業 を 余 儀 な く し た な ら ば	活 用 し た 漁 場 保 全 に 支 援 事 業 に あ る こ の 「 資 源 ・ 	漁 場 保 全 は 水 産 庁 の 「 資 源 ・ 	組 ん で こ れ だ 。	と は 、 環 境 ・ 底 生 態 系 保 全 に 取 り 動 	網 の 3 つ の 漁 業 者 グ ル ー プ 	湾 及 び 沖 の 小 型 機 船 別 府 	▽ 休 漁 中 の 漁 業 者 対 策
--	--	--	---	---------------------------------	--	--	---	--

とコロナ禍の組合員支援策として、ブラインド生産物を学校給食に提供して消費を拡大を図る取組について、8月号（12月20号）の紹介した。また、購買事業の燃料費の値下げ措置にともない、10月号（12月2号）に掲載した。この他に、組合員支援に取組んでいる。

コロナに負けるな！

組合員への支援を推進

題も含まれて情報提供も、
 うためた。そのよき版中を創
 ナで社生、うな支活、動、ロ
 一変。外食の需要に、え、た
 こヒラ。メの出荷が止まらな
 シェから出品。ネット上、マ
 りは上げを重なり、料無の
 らは自ら達し、代が来られ
 昔は魚屋、生者が教、る言
 葉で、発行の後は全員の
 分、講演、の、グ、ル、ブ、
 漁業が、種、類、の、地、域、等、
 ある、を、が、新、規、就、業、者、
 課題。を、が、新、規、就、業、者、
 した。を、が、新、規、就、業、者、

旬までの間に、から約90%の海域を掃海し、有害な漂流物等を除去して、漁業被害を生ずるおそれがある。国庫交付金及び商社が

▽養殖魚の緊急販売対策

生産者・県漁協及び商社が



図の耕うん・資源の清掃等に育成を
った。資源の保護、育成を

校生はネットの活用にも前
向きで、資源管理の重要性
を見持ってもいた。かりした
見を、県漁協としても、コ
禍の水産物の消費・流通形
態の変化に対応し、広く生
産者が出荷できる学校給食
への食料提供等を取り組ん
できた。今後はおさかなラ
ンドOP A店を活用し、都
市圏外食受け商材を県内で
買っている。仕組みなどを
どえていく。ネット販売を
見聞き参考にした。い。意
とまた、熱心な若手漁業者
と意見交換できる貴重な
機会であり、今後は県重
かからも本支店を問わす、実
務担当者。者の出席が必要と痛

[illegible]

香々地支店では岬ガザミを直売

21日、県漁協香々地支店は、事前予約制の岬ガザミ、タイワンガザミ、マダコの直売会を開催した。コロナ禍で消費が低迷するブランド水産物を、市内外の消費者に格安で提供し、消費拡大に努めた。旬の海の幸を求めて多くの予約が入り、早々と受付終了となる盛況となつた。



香々地 海のグルメ直売会



録 庁 庫 別 じ 内 旬 が ぶ
 さ の 4 府 ・ の 2 は ぎ り で
 れ 地 例 関 開 水 0 9 つ
 た 域 目 ち さ 産 1 月 し
 。 城 と り ば 物 3 か り 甘
 体 し め へ 年 ら と 味
 商 て ん 、 は に 1 詰 が
 標 ー 「 は 2 ま る
 に 特 に 豊 関 、 月 る
 登 許 続 後 興 。 身

当日は、活魚等も販売された。岬アオサは、岬には岬ほかに、購入者もなかった。岬は、岬に岬をブレゼントした。岬は豊後高田の香心地の沖合で獲れるワタリガニの体は20センチ前後と大

安でベ
 安の支
 の援
 販費
 売さ
 れる
 が2
 可分
 能こ
 との
 1が
 国
 庫
 格

▽組合員の資金対策
 や持
 コ続
 ロ化
 定実
 行ナ
 に給
 努付
 め金
 め対
 る策
 長
 合
 員
 の
 申
 請
 指
 導

資1第
 金0策
 が年F
 4をJ
 件資
 行金
 されバ
 融5ン
 資件
 されコ
 したロ
 。化ナ
 5員
 億号
 円対

員は
 へて
 の支
 の取
 組
 によ
 り
 進
 め
 ら
 れ
 組
 合

一は
 方事
 務作
 業の
 担
 中
 心
 とな
 り
 収
 入

支一
 方悪
 化販
 売の
 業
 費
 増
 加
 等
 による

面「9
 月仮
 算決
 算中
 参
 照」
 による

令この
 3月
 支
 出
 を
 予
 算
 中
 に
 要
 求
 する

令和
 3年
 の
 支
 出
 予
 算
 中
 に
 要
 求
 する

と体
 令
 とい
 たい

る大知 規法臣 則規許 な規則 で許可 な定可 許漁業 漁業の と受手 許けて 可な行 手け関 続れす、	準用さ るる大 の法規 則に置 くると 同じ規 定を漁 業を規	二知事 に關す る許可 規定の 整理続	別はで規 に「は制 適用「内 範囲海面 をにおに 限いおな 定ている す「と一 る。個又	ら消ま罰 をえ可 、が操 、す、可 、規、強 海面、適 内容、用 が、一、 異、本、 な、水、 一、面、 と、条、 。個又	許産こと 可操動の 強強植法 化の物改 用、罰の正 係、則採 の、る、 疑、引禁 義、と止 を、上、 、踏等無	るをりる 適こと 用當業 がす、 あ、係、 き、河、 か、令、 、違付、 疑、ち、 義、ら、 生、規、 じ、則、	な海 漁業 と、内 、河、 水面 には 近境 にお ける	う則用漁 。のさ業沿 一、れ調っ 本、の整ほ 化、内規、 な、水、 ど、面、 の、漁、 改、業、 正、調、 行、規、	た規規海 も、の、の の、を、 改、知、 正、適、 、理、 法、す、 改、用、 面、の、 正、面、 を、の、 行、規、	漁業の 法、改 規、正 に、訂 、正 、可 、用 、大 、知 、事 、可 、業 、伴 、行 、可 、事 、可
--	--	---------------------------------	--	---	---	---	--	--	--	--

の両方を把握できるようにしておくための規則のように用さるる法の許可手続規定と同じ規定を置く。	許可の有効期間を3年間から5年間に延ばす 従来、許可の有効期間は3年であったが法改正により、許可の有効期間を最長5年と定めた。 現在、漁業調整上の問題により3年ごとに許可の内容を見直す必要に迫られて、漁業の安定化に資するよう、許可の有効期間を5年とする。	許可の制限措置とする事項を規定するとともに、関係規定を整理	従来、「許可の内容」と呼んでいた次のものを許可の「制限措置」と定める。 ・ 漁業種類 ・ 許可するべき船舶等の数 ・ 及び船舶の総トン数又は漁業者の数 ・ 推進機関の馬力数 ・ 操業区域 ・ 漁業時期 ・ 漁業を営む者の資格	法では、定められた「制限措置」と異なる内容で漁業を営んでならない。また、制限措置違反の罰則は3年以下の懲役又は300万円以下の罰金となる。 現在、海面規則中の船舶の総トン数・推進機関の馬力数を制限する規定があるが、法改正後は、許可の制限措置にこれを定めることと規制する。	資源管理状況等の報告（漁獲実績報告の提出）
---	--	--------------------------------------	---	---	------------------------------

[illegible]

各海区長から組合長に推薦のあった9名について、漁業第6回理事会に諮り、漁業者委員の候補者に決定し、知事に推薦した。

応援 1も賀香名名 学乗間が渡親 受0た0修店9(修総 1賀
 浜0多関々の県ぶり、行邊方1け2 一月をを(3研支合水年関大
 ので名くの地就研内こ、そわ真と1入0漁1受訪の4修援支産間の分市
 声研が、受で業修でと操れれ一な日れ業7けれ2(生制援庁の一市
 を修独1け1し生はに船ぞたさるにがを就日たて人とは度事の研本在
 か生立2入名てをこなやれ。ん渡は決通業にこ5。牧木を業新修釣住
 けをし名れがお受れる釣のこと邊佐まし支福と日直淳村活に規に漁の
 て見てをは研りけま。り親れの栄賀って援岡が間接司真用る漁入師若
 ほかい受県修、入で 方か顔作関た、フで契の佐さ也する業る者者が
 しけるけ内中現れに 仕のら合さ支。正エ行機短賀んさる長就。目が
 いた。入で。在11 方船1わん店 式アわ。期間(ん。期業 指、
 。ら れ最佐は57 をに年せ、で な2れ1研支3 研者 し佐

関の一本釣に挑戦



(左より) 渡邊栄作親方、木村真也研修生、牧淳司研修生、渡辺真一親方

水研だより

マガキ天然採苗試験を実施しました！

“海のミルク”牡蠣の美味しい季節がやってきました。
 県内のマガキ養殖については、杵築市が主産地ですが、近年、中津市の「ひがた美人」や国東市の「くにさきOYSTER」、佐伯市の「大入島オイスター」といった新規のカキ生産も始まっています。こうした中、種苗の安定確保や多様化などの課題に対応するため、大分県水産研究部北部水産グループでは、3年前から競争的資金「イノベーション創出強化研究推進事業」に参画し、国の研究機関等において開発された潮間帯でのマガキ天然採苗技術の有効性について、杵築市灘手漁港や中津市小祝漁港等の現場海域において現地実証しています。

カキの産卵が始まる6～7月に稚貝を付着させるための採苗器を潮間帯に設置し、9月までに回収することで、1個1個がバラバラのシングルシード種苗を得ることが出来ます。

潮間帯は干潮時に直接空気にさらされるため、乾燥や紫外線に対する耐性の強い、カキのような限られた一部の水産生物しか生息出来ないため、海中に浸かりっぱなしの状態と比べて採苗器の汚れ(他の生物の付着等)が少なく、より長い期間の採苗が可能となります。また、採苗器にはケアシェル(カキ殻粉末を成形加工した固形物)やペットボトルなどを用いています。

今後は、この技術を県下のカキ養殖業者さんに普及していきたいと考えています。



《大分県水産研究部北部水産グループ》

コ 等つい期 さ案決7権て「案期案改3のて議理
 ロ9にいて・まれを算号の、理に指「定号一」案事 2
 月つて「内た上概議処、事つ導Jに議部、一組を
 禍末い(、部、。程要案理第とい先Fつ案変第組を
 で時て購「検「しに「方針のてにまい「更2合開、本
 販点報買「事査令、つ令に「号融「基りて融に号員催、本
 売の告「販実実和いい和「議資、づン「資つ議のし年度
 事販し「販実施2 ずて2「案契第くバ、やい案異たの
 業決た「績報年れ「年て「約5改ン第領て「動。の
 の算。業「報告度もの度「不に号善ク4の「規に第第
 落は「「告に上承7・、良つ議計・号一、程つ17
 ち、「につ半認議仮第償い案画早議部第類い号回

第7回理事会開催

区分	仮決算残高	3月末見込
信用	68,812	141,388
共用	33,093	42,960
共済	273,195	538,776
購買	134,302	456,210
販売	53,851	85,196
製氷冷凍	16,618	103,545
加工	13,200	27,311
利用	▲1,264	6,700
漁業自営	162,559	384,290
指導	13	952
無償	0	0
貸倒引当金	754,380	1,787,328
事業総利益	934,773	1,865,404
事業管理費	▲180,393	▲78,076
事業利益	40,899	63,919
事業外損益	▲139,494	▲14,157
経常利益	▲506	▲3,007
特別損益	▲140,000	▲17,164
税引前当期利益		

るも点ま込
 見、不でたみ
 込コ透第、が
 みコ明33著
 。ナな波月し
 悩要に未い
 の素よるな
 影はる決ど
 響る感算、
 をる染見厳
 反が拡込し
 映、大みい
 し、がは結
 はず懸念1で
 決れにさある
 算とる月
 とな時。

RCEP 水産物の合意概要

ブリの中国輸出関税は段階的撤廃へ

後指 魔在 最テ 全ブP水 P
 力針中さの本終貝まてやA産合1
 点に国れ関果的やた関ノよ品意が5
 をも市る税のにブ、税利りの内容、日
 置明場。率主関リ中削をも関を合、日
 く記へ7な税の国減始大税を意、地
 べさの%輸撤関へ、め幅撤見署域的
 され輸が出廢税の撤とに廢る名のな
 事て出1関とな段出かるは、至包括
 項お拡1心な段出かるは、至包括
 とり大年品る階関らI水、日本た
 となり(▼つ又ではあ引つに外品にP側の経済連携(RCE
 りそ2いは1るきいなに制や関日税につ
 そう面ては6ブリ下てはたいれEにつ
 だ参は。考県)政、推に、は、コ、い
 今進撤現

オリンピックらOPA店に来店

7日、シドニー五輪女子マラソン金メダリスト高橋尚子さん、佐伯市出身の元プロ野球投手川崎憲次朗さんをはじめ芸能人らが、おさかなランドOPA店を訪れるサプライズがあった。



現ここにシ 民室高よ害 害れ 成にン年
 しと賛ヨ県でな橋る者車者たコが向ピに
 たか同ン漁にど尚、い、スはロ目けッ延
 。らしの協ぎが子ノ小すボ、ナ標たク期
 、毎実はわ行さし学ラし参禍。さ・と
 今回現ノっわんま生ンツ加で。らパな
 回協にしたれにラ、ナを者規。なラっ
 の力向マ。、よイ芸し体は模。るリた
 訪しけラ 多るズ能や験様は。機ン東
 問てたイく陸駅人視し々縮。運ビ京
 がい取ぜ の上伝ら覚たな小のッオ
 実る組し 市教にに障。障さ 釀クリ

本回し分2ツイ健会の
 イ目だて0・ベ常場森J
 の参の2オン者に口R
 開大加キ0ブトが、広
 催分しヤい、触障場分
 はとでたスハスれ害一
 、なは人ト大しボ合者
 来る4たとトしうとを野

編集後記

に 筆コに がりを 躍ら修政 元特地 柔さがて
 至皆とンゴな、一 提県を一の課佐の大に「軟な変楽漁
 りさなベルお掲は供か祈年情の賀熱の足海に発わし業
 まんりはフ、載、いら、報野関心岬への対言りみし
 しま総を当し今たはた二を田支なガ運グ応が久にら
 たごし務始方た後だ時い人いし店取ザナルす多々し
 。協た課めコいもい宜。のたんの組ミだめるくにて意
 多力。のなロ。不たを。若だを高には。直必、参い見
 謝。の松い。定。得。者い通瀬感句売要新加の交
 。今。原の禍。期「た。のたじ主謝の約会をしし行換
 回主でを。に水研 健。て任し絶購「感いた事会
 も任、言。は研究 関こ長かた品入へじ感。は
 発の水い。なだ情。れ期らい。し香た性前立か
 行執産訳るよ報 活か研漁。地た々。に向場ね



優勝した安東将悟氏(左)と山本組合長

二大男N2ス れ方 性参リベ
 氏が賞で1は5優た式競が加者が水
 獲(496藤ネ東将安の14日、水
 した22、勝ト東将安の14日、水
 位。N位氏7梧は4日、水
 は7はで1氏で4日、水
 岩2荻G。で1氏で4日、水
 佐・田8グで行り、水
 研8征60ロわア女

第42回 水産コンペを開催